

令和7年度 第1回さっぽろ連携中枢都市圏ビジョン懇談会で頂いた御意見等について

- 議題 ・ 第2期さっぽろ連携中枢圏ビジョンに掲載している事業の進捗状況
- ・ 連携事業の実施状況について（2024年度の各取組の実施状況、2025年度の新たな取組）

資料1

	御意見	御意見に対する考え方
1	<p>基本KPIについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「20～29歳人口における道外への社会増減数」に関して、20代で転出した市町村民がその後30代になって再びさっぽろ圏へ転入しているという傾向はあるか。 また、20代前半と後半の動向の違い・30代との動向の違いはあるか。 	<p>個人に紐づいた社会動態のデータがないため、さっぽろ圏から道外転出した20代の市町村民が30代になって戻ってきているという統計データはない。また、H31年度からR6年度までの道外転出入者数は、全ての年度において、20代は転出超過（平均約3,000人）であり、30代は転入超過（平均約130人）となっている。また、20代前半の方が20代後半より転出者数が多い傾向にある。</p> <p>20代の転出超過数が他の年代の転出入数に比較して突出している状況であり、移住など道外の20代の若者に「選ばれる」ことも包含する目標として「20～29歳人口における道外への社会増減数」を基本KPIとして設定しているところ。</p>
2	<p>事業No18「救急医療の維持・向上に向けた取組の推進」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救急安心センターさっぽろの運営に一部の市町村だけが参加している状況だが、他の市町村が参加するに当たり、何かハードルはあるのか。 	<p>現在参加していない市町村の理由については、事業運営に係る経費の新規予算確保が困難であるという財政的な負担と伺っている。また、既存の医療相談窓口がある自治体においては、事業重複となり#7119の必要性を感じていないようである。一方で、救急医療体制整備を検討する過程で本事業への関心は高まっており、毎年、本事業に関する問合せが寄せられている。</p>
3	<p>事業No35「鳥獣対策等に関する取組の推進」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価指標が「会議開催数」というのは適切なのか。 ・鳥獣対策の一つとして狩猟免許を取得する人を増やすなどの取組はできないか。 ・鳥獣対策について、各市町村でやっていることに加え、連携することによって生まれるメリットを研究し、取組を検討してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価指標に関して、鳥獣の捕獲数などが指標に掲げる数値としては考えられるが、自然環境に起因するものであるため、数値の設定が難しい側面がある。御指摘のとおり、会議の開催はあくまで手段ではあるが、目指すべき成果（人身被害の防止、農作物被害の軽減など）について圏域の市町村で定期的に意見交換し、その中で個別の連携手法を模索する観点では重要な位置付けと考えており、指標にしているところ。今後は、より実効性のある評価指標があれば検討してまいりたい。 ・札幌市を含む「北海道猟友会札幌支部(札幌市、石狩市、北広島市及び恵庭市)」においては、若年層の狩猟免許取得者は増加している。一方で鳥獣対策は猟友会の協力なしでは成り立たないため、担い手確保は重要であると考えており、他地域の状況も含め、担い手確保についての対策も検討してまいりたい。 ・ヒグマの生息数推定や個体ごとの管理を市町村単独で行うには限界があるため、圏域全体で調査・研究を行うことで、より科学的根拠に基づいた「広域管理」が可能になると考える。実際に個体管理を実施することでヒグマの動きを把握し、対策しやすくなるなどのメリットがあり、DNA分析結果を北海道を通じて共有している。引き続き、DNA分析やGPS情報などを共有し、さらなる対策に繋がるような様々な方法を検討してまいりたい。
4	<p>事業No35「鳥獣対策等に関する取組の推進」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鳥獣対策の入り口として、需要喚起の観点から、連携中枢都市圏の住民等に鹿肉の食肉消費を促進する取組はどうか。 	<p>札幌市ではこれまで課題であった捕獲したエゾシカの処分方法を確立するため、焼却施設に搬入するための一時集積施設及び減容化処理するための減容化施設を整備したところ。</p> <p>今後、北海道が実施している鹿肉の有効活用を推進するための「エゾシカジビエ利用拡大推進事業」の動きなども踏まえながら、さっぽろ圏での鹿肉の利活用について注視してまいりたい。</p>
5	<p>事業No42「若者の出会い創出」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価不可にしてしまうと議論が上がらない可能性があるため、どういうラップで行くのか、そのラップに対してどうなのかと評価をした方がより活発な議論に繋がるのではないかと。 	<p>本事業の評価指標は、令和9年度末時点での成婚退会数が累計115件となることを目標として設定したものであり、本指標に限らず、目標年に達していないものは「評価不可」と評価している。</p> <p>頂いた御意見を踏まえ、経過の進捗状況を記載した資料（※）を追加することとした。</p> <p>※（資料4）将来時点に評価指標を設定している連携事業の進捗状況</p>